

- 1 単元 大項目C「諸地域の交流・再編」
中項目(1)「諸地域の交流・再編への問い」

- 2 学年 第2学年

- 3 単元構想のコンセプト

○単元観

学習指導要領解説地理歴史科編には、大項目Cと中項目(1)について次のように記載されている。

大項目C「諸地域の交流・再編」
諸地域の複合的・重層的なつながりを、諸資料を比較したり、関連付けたりして読み解き、多面的・多角的に考察し表現する活動を通して、諸地域の交流・再編を構造的に理解することをねらいとしている。そのため、「諸地域の交流・再編への問い」、「結びつくユーラシアと諸地域」、「アジア諸地域とヨーロッパの再編」の三つの中項目から構成されている。
中項目(1)「諸地域の交流・再編への問い」
交易の拡大、都市の発達、国家体制の変化、宗教や科学・技術及び文化・思想の伝播などに関する資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 次のような技能を身に付けること。 (ア)資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付けること。 イ 次のような思考力・判断力・表現力等を身に付けること。 (イ)諸地域の交流・再編に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、諸地域の交流・再編を読み解く観点について考察し※、問いを表現すること。 ※交易の拡大に見られる経済交流の活発化、都市の発達に見られる社会の変化、国家体制の変化による政治の再編、宗教や科学・技術及び文化・思想の伝播に見られる知的活動の特色などに照らして考察することで、諸地域の交流・再編を構造的に捉えることができることに気付くようにする。
中項目(1)の学習の特徴
問いを表現するとは、交易の拡大、都市の発達、国家体制の変化、宗教や科学・技術及び文化・思想の伝播などに関する資料を活用し、情報を読み取ったりまとめたり、複数の資料を比較したり関連付けたりすることにより、諸地域の交流・再編に関わって抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見いだす学習活動を意味している。歴史に対する驚きや素朴な問いが歴史学習の出発点であることを踏まえ、生徒が資料から読み取った歴史についての事象それ自体への問いを表現する中で、学習内容に対する生徒の課題意識を育むことが大切である。

以上を踏まえると、中項目(1)で生徒に求められることは、大項目Cで学習する時代・地域に見られる諸地域の交流・再編に関する資料を、歴史的な見方・考え方を働かせて考察する中で興味・関心を持った事柄を、今後学習したいテーマとして設定することだと考えられる。

○生徒観

本校生徒は、個別の歴史事象について、歴史的な見方・考え方を働かせながら考察することは比較的慣れているが、考察を通して「もっと学びたい」と思ったことを自らテーマとして設定するといった学習活動は、あまり経験がない。

○指導観

世界史を学習する時、「この時代の特徴は〇〇だから、歴史事象は～というように推測できる」という思考は重要だと考えており、生徒にこのような思考力をつけたいと日々実践している。

学習指導要領解説には、「生徒が資料から読み取った歴史についての事象それ自体への問いを表現する中で、学習内容に対する生徒の課題意識を育むことが大切」とある。中項目(1)で生徒が表現する「問い」は、①複数の資料から読み取った情報を活用して作った問い、②探究におけるリサーチクエスションのような問い、の2種類があると考えるが、上述した思考力がより発揮されるのは②であると考え。生徒には、①の問いを表現させ分析させた上で、時代に着目させて調べ学習を行い、できるだけ多くの生徒に②のような問いの表現を行わせたい。

中項目(1)で扱う資料には、2つの条件が必要であると考え。まずは、視覚的にイメージしやすく、誰でも不思議に思うような資料である。なぜならば、大項目Cの基礎的知識がない状態で分析したり仮説をつくったりする必要があるためである。次に、時代の特徴が色濃く表現されているものを資料にする必要がある。これは、②の問いの表現ができるようにするためである。

本単元は、『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校 地理歴史』P135～142を参考にして構想した。この参考資料には、「生徒が問いを表現する過程においては、単に驚きや素朴な問いを表現するにとどまらず、(中略)資料から読み取ることのできる内容と既存の知識を関連付けるなどして考察し、表現した問いについて予想(仮説)を考案するなどして解決の見通しをもち、歴史の理解を深める問いへと練り直すように促すことも大切である」とあり、教師が適切な資料を提示した上で生徒が問いを表現し、学習の過程で問いを練り直すことが重要であると考え。

以上を踏まえ、本単元では、「都市の発達」をテーマにして、中世から近世ヨーロッパにみられた都市計画の変化を扱うように2時間で構成した。都市計画の変化については、視覚的資料も多く、次の表にまとめたように時代性との関連が考えられる。この時代性との関連から分かるように、「都市の発達」をテーマにすることで、政治のみならず経済や文化など、生徒は都市の発達を様々な事象と関連付けて考察し、問いを表現することができる。また、生徒が自らの興味・関心のある事象と関連付けて問いを練り直すことができるよう、第二時では生徒が情報を収集できる場面を設ける指導の工夫を取り入れた。

表 ヨーロッパにおける都市計画の変化についてのまとめ

時代	代表的な都市	主な特徴	時代性との関連
12世紀～	ネルトリンゲン	・円形城壁で囲まれる ・迷路的、非直線的道路が多い ・教会や領主の館が存在 ・政治、経済の中心としての広場	・東方交易による遠隔地交易の復活 ・封建制
15世紀～	ナールデン	・古代ローマ期の『建築論』の再評価 ・幾何学模様型の道路 ・城壁は低くなり、円形型から稜堡型へ	・ルネサンス ・火砲の発明
17世紀～	ヴェルサイユ カールスルーエ	・城壁を取り壊す動きが見られる ・君主権力を象徴するような直線的で広い道路(ブールバール)の設置	・絶対君主による都市改造 ・海外植民都市への応用

(日端康雄『都市計画の世界史』講談社現代新書、2008年 を参考)

4 単元の目標、評価及び展開について

(1) 目標

「諸地域の交流・再編」に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、資料から情報を適切かつ効果的に読み取ったりまとめたりして、「諸地域の交流・再編」を読み解く観点である「都市の発達」について考察し、問いを表現する。その際、「諸地域の交流・再編」に関わる諸事象について、見通しをもって学習に取り組もうとする態度を養う。

(2) 単元の評価規準及び評価基準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
資料から情報を適切かつ効果的に読み取ったりまとめたりする技能を身に付けている。	「諸地域の交流・再編」に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、「諸地域の交流・再編」を読み解く観点である「都市の発達」について考察し、問いを表現している。	「諸地域の交流・再編」に関わる諸事象について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。

観点	Aの例	B	C
知識・技能	資料から情報を適切かつ効果的に読み取ったり分かりやすくまとめたりする技能を身に付けている。	資料から情報を適切かつ効果的に読み取ったりまとめたりする技能を身に付けている。	資料から情報を適切かつ効果的に読み取ったりまとめたりする技能を身に付けていない。
思考・判断・表現	複数の資料から読み取った情報を活用して表現した問いと、時代背景に着目して調べた情報を歴史的な見方・考え方を働かせて関連付け、中項目(2)以降の探究につながる問いを表現している。	複数の資料から読み取った情報を活用して、歴史的な見方・考え方を働かせて問いを表現している。	問いを表現する際に、1つの資料しか使っていない。
主体的に学習に取り組む態度	「諸地域の交流・再編」に関わる諸事象について、複数の学習方略で見通しをもって、意欲的に学習に取り組もうとしている。	「諸地域の交流・再編」に関わる諸事象について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	「諸地域の交流・再編」に関わる諸事象について、見通しをもって学習に取り組もうとしていない。

【思考・判断・表現の観点でC評価の生徒への手立ての例】

城壁の形や街路の形、資料中の縮尺などに着目して、都市や関連する情報を比較するように指示する。

(3) 展開

(○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」)

	主な発問・指示	評価の観点			留意点、資料等
		知	思	主	
第一時	・ Google Earth で、ネルトリンゲン、ナールデンを検索しよう。それぞれの都市の形状に着目して特徴を挙げよう。	●			ネルトリンゲンの遠景の画像 (Google Earth) ナールデンの遠景の画像 (Google Earth)
	課題：ヨーロッパにおける都市計画の目的は何だろう。				
	★問いを表現しよう① 2つの都市の形状などを比較し、考察した結果から、疑問に思ったことや追究してみたいことを問いとして表現しよう。		●		・ C評価の生徒への手立てを行う。 (手立ての例は4(2)で前述)
	思考・判断・表現の観点でBと判断できる問いの例 なぜ城壁が円形のものから星型になったり、壕がつくられたりしたのだろうか。				
第二時	・ 15～16 世紀に都市を計画した人々は、紀元前1世紀に提案されたモデルを参考に行っている。15～16 世紀のヨーロッパとは、どのような時代だったのだろうか。				・ 紀元前1世紀にヴィトルヴィウスが書いた『建築論』が15世紀に再評価されており、1000年以上前の都市計画モデルを参考に行っていることに着目させる。 ヴィトルヴィウス（前1世紀） の理想都市の図 (出典：参考文献①p51)
	★問いを表現しよう② ①で表現した問いを、この時代のヨーロッパの出来事とのつながりを意識してもう一度問いとして表現しよう。また、その問いを立てた理由を考え、記入しよう。		○		
	思考・判断・表現の観点でAと判断できる問いの例 ルネサンスの時期と各都市に見られる星型の要塞にはどのような関係があるのだろうか。				

	主な発問・指示	評価の観点			留意点、資料等
		知	思	主	
第二時	課題：17 世紀以降の都市計画の目的は何だろう。				
	・資料でヴェルサイユとカールスルーエの街並みを概観してみよう。都市の形状に着目して特徴を挙げよう。 ★問いを表現しよう① 前時の都市と比較し、考察した結果から、疑問に思ったことや追究してみたいことを問いとして表現しよう。	●			ヴェルサイユ、カールスルーエの概観図 (出典：参考文献①p172) ・C 評価の生徒への手立てを行う。 (手立ての例は4（2）で前述)
	思考・判断・表現の観点でB と判断できる問いの例 道路の幅を広くし、直線距離を伸ばすようにした目的は何だろう。				
	○中世から近世にかけてのヨーロッパの出来事に関して、都市の形状と関連がありそうな出来事など、自分の興味のあることからインターネットで調べてみよう。 ★問いを表現しよう② ①で表現した問いを、この時代のヨーロッパの出来事などとのつながりを意識してもう一度問いとして表現しよう。また、その問いを立てた理由を考え、記入しよう。	●		○	
	思考・判断・表現の観点でA と判断できる問いの例 絶対王政の時代と、各都市の道路の幅や距離にはどのような関係があるのだろうか。				
	●学習の見通し 大項目Cの学習を通してどのような点について考えれば、表現した問いを明らかにすることができるかを考え、見通しを記入しよう。			●	

5 参考文献

- ①日端康雄『都市計画の世界史』講談社現代新書、2008 年
- ②山田耕治「バロック都市計画」の確立と海外植民地における展開についての研究』『土木史研究 講演集』vol. 35、2015 年、pp. 61-68
- ③河原温、池上俊一『都市から見るヨーロッパ史』NHK 出版、2021 年
- ④三宅理一『パリのグランド・デザイン ルイ 14 世が創った世界都市』中公新書、2010 年

<ワークシート>

第一時	課題 ヨーロッパにおける都市計画の目的は何だろう。	ネットリンゲンの 遠景の画像 (Google Earth)
	◇ネットリンゲンとナールデンの都市の形状に着目して特徴を挙げよう！	
	★問いを表現しよう① ◎疑問に思ったことや追究してみたいことを問いとして表現しよう！	
	★問いを表現しよう② ◎疑問に思ったことや追究してみたいことをこの時代のヨーロッパの出来事とのつながりを意識してもう一度問いとして表現しよう！	
●この問いを立てた理由を記入しよう！		
第二時	課題 17世紀以降の都市計画の目的は何だろう。	ヴェルサイユ、カールスルーエの概観図 (出典：参考文献① p172)
	◇ヴェルサイユとカールスルーエの都市の形状に着目して特徴を挙げよう！	
	★問いを表現しよう① ◎疑問に思ったことや追究してみたいことを問いとして表現しよう！	
	★問いを表現しよう② ◎疑問に思ったことや追究してみたいことをこの時代のヨーロッパの出来事などとのつながりを意識してもう一度問いとして表現しよう！	
	●この問いを立てた理由を記入しよう！	
☆見通し 大項目Cの学習を通してどのような点について考えれば、表現した問いを明らかにすることができるかを考え、見通しを記入しよう！		